

聞いた



渡辺邦信さん(40)
昭和54年岩沼市役所入
庁。現在、岩沼市市民会館
事業係長として勤務。
ギターや折り紙など幅
広い趣味を持っています。

「おりがみをおしえてくれてありがとうございます。また、きてください」
女の子は、「花」の折り紙を手紙。男の子は、「ははとみ」一紙の私
をゆたかどったきり紙を手紙。「みどり」色の大きな袋に入ってお
きました。「花とみどり」とははとみと一は、岩沼市員数の何の題名
「海の方角、南国市は南の方、岩沼市は東の方、浜辺の砂の下、
南国の浜辺で様々な色の石を見つけた。刺繍を受けて
四色、五色、幸福を呼ぶ石。そのことが思いはせられ、「南国の五色
の石」としていろいろと活用できる方法もあるのでは、南国市の五
色、また一言、二言と、一人つぶやき。

南

国

見た

岩沼市と南国市の姉妹都市交
流二十周年記念事業の一つ、職
員派遣交流が、十月十二日から
十二月十日までの二か月間行わ
れました。
岩沼市役所からは渡辺邦信さ
ん、南国市役所からは長野洋高
さんがお互いの市に滞在、その



長岡西部保育所で折り紙を指導中

両市に、中学校は四校ずつあります。同じ「北」のつく学校どうし
で何か交流ができないものかと考え、岩沼北中学校に行ってみまし
た。「南国市からおいでになった長野さんが、学校へ広報取材に来
たんですよ」と聞いて、縁はあったのだと大喜び。中学生どうしが
姉妹都市のことを学び合い、多くの友づくりをしてほしいものです。
姉妹都市を結んだ昭和四十八年。岩沼市では、子どもから大人ま
でお互いに声かけあえる街にしたいものと考えて、異なる年齢層で
交流にならうという「異年齢集団」づくりをジュニアリーダーがし
ていました。サークルの名は、「岩沼ボランティアサークル」。南
国市の高校生、中学生ジュニアリーダーの集いを見学させていただ
きながら「やはり高知県のジュニアリーダーは、特に南国市のジュ
ニアリーダーのレベルは全国レベルという話は本当だった」と実感。
二か月間の南国市への派遣や学んだことの一つに「岩沼市に行け
ば、もう一つ南国市があり、南国市に行けば、もう一つの岩沼市が
あり、お互いが姉妹都市あるなら、私は姉妹都市職員であり、姉妹
都市市民である」という意識を得たことを両市の皆様に報告致し
ます。ありがとうございました。

浜の近くの大浜小学校。二年生の授業を見学させていただきました。
なごらの給食。園庭の授業です。同じ物をみても、見ると観ると
では大違い。一人ひとり、違う絵に仕上がっていました。上から
みる子、手にとってみる子、斜めからみる子。同じ物を見ても、同
じことを聞いても、同じ物を描いても、違った見方、違った聞き方、
違った描き方になります。個性が光っていました。「考え方も十人
十色。南国市人口四万八千人。岩沼市三万八千人、それぞれ良い
点を思いつけば、もっと良くなるな」と、また一人つぶやき。
「パンフレットでは、私たちの知らないことがわかって、
とてもよかったです。温泉や神社、サイクリングロード等、たくさ
ん写真がのっていて、岩沼市の印象もよくなりました。……」



南国市のジュニアリーダーと

来た

見た

長野洋高さん(24)
南国市役所に勤務
して2年目。現在企
画課で広報を担当。
取材活動で市内を回
っています。



NHK(二人のビッグショー)リハーサル風景(岩沼市民会館)

とまの様子をそれぞれ報告して
もらいます。

岩沼

十月二十三日(土)、この日は南国市の文化祭にあたる岩沼市民文化
振興祭の開幕。全庁の市民会館は、庄原敷こもろ十二番と大ま、はな
いもの、劇団四季のミュージカルや鈴木雅之のコンサート(二月
十六日予定)などでもできる大ホールに、中ホール、会議室なども備
えた本格的なホールで、いくつか大きなイベントがあった。ここで
行われる振興祭、入れものが立派なら、中身も大したもの。二週間
を三朝にわけ、順番に絵画や色紙、生け花、盆栽、書道、陶芸作品
などの展示に、舞台発表があったりと、見ごたえがあった。
十一月二十日(土)、遠野物語の遠野、かっぱ伝説のメッカ、民話の
宝庫、懐しの遠野へ一泊二日でツアーینگ。十月に乳山沼さんと
の劇団ツアーを敢行した今、二大ツアー計画の残り、遠野ツアーを
実行する時がきたのだ。岩沼の大学生、前地君と綿密な計画を練
り、出発するが、すぐに雨になる。さい先が悪いがくじけてはいら
れない。カッパを着込み再び出発するが冬の雨、寒さが身にしみ
る。夕方、遠野に到着。雨と寒さでグッソリしていた二人。宿でお
となしくするといい意見に反対の手はあがらなかった。



染色サークルの活動風景

遠野首飾りで語りへのおばあちゃんと一緒に

十月十二日(火)、岩沼市役所への初出勤。今日から二週間で仕事をす
るのかと決意も新たに、意気込んで行ったのはいいが、少しして
な。自分の使っている言葉とこれほどまでに違っている。少して
したことがなく、最初からカルチャーショックを受けているものに接
せんなこんなで、いろんなところへあいつつを回して回り、配属先の
市民会館で、岩沼第一日目をつつがなく終えた。
十月十六日(土)、南国市から姉妹都市視察訪問団百人ほどがやって
きた。一通りしか経ってないのに懐かしいも変だが、とにかく、懐
かしい顔ばかりがほっと心に響く。うれしくて、我慢してないとい
い状況なので、訪問団に交じって回ることにした。市役所での款
迎セレモニーのあと、大町市長の講演、青年文芸など予定通りに清
会したあと、次々と夜の岩沼に浸りだした。

十二月十二日(日)、岩沼での生活が終わりに近
づいてくるとは、最初のころの緊張感がうそのようにリラックスし、
ふその土地という感じではなくなっていた。市街地の通りには、農家
食事も取り組むをするその姿勢や、家庭に招いてくれ、手作りの
漬かきをはんの一軒でもかきまいることが、岩沼の人の良
生活にも慣れ、いろいろなことでも知り合ったりした。楽しい思い出が
くれたり、飲みに誘ってくれたりした。楽しい思い出がくれたり、
また、最初は、二か月がすくなく長く感じたが、もう一通り周った
ら、もう少しみんなと一緒に過ごせるのに、もっといろいろなこと
を見、経験できるのに、と思うようになっていた。
この二か月を振り返り、高知に返るうれしさを、岩沼をあとにする
寂しさを、複雑な気持ちの、岩沼最後の夜となった。

れあいつーく

ちを再発見し、共にまちづくりを市民の対話形式による意見交換を出された提案をご紹介します。



第1回
平成5年9月29日
テーマ
「若者に魅力のあるまちづくり」

海外研修制度の設置

ふるさと創生事業の海外研修でドイツへ行きました。日本ほど経済は豊かでないのに、日々の生活に日本には見られない豊かさを感じました。遊ぶにしてもお金を出して施設で遊ぶのではなく、自然のものを上手に使った遊び方をしていました。意識の違いを考えさせられました。このことはたくさんの方に体験してもらいたいと思います。

今年市助成のある海外研修はありませんでしたが、これからも研修は続けてもらって、できるだけ多くの市民に参加の機会を与えてほしいです。同時に、市の職員もこのような研修をしてもらい、担当と市民が一体となったまちづくりをしていきたいと思っています。

まちづくりには、まず市民、職員の意識の改革が大事です。そのためには色々な研修への参加を提案します。

護岸工事の見直し

川に行きたいと思っても下りる道がありません。魚つりをしたいと思っても魚がいません。四万十川は自然工法を取り入れ、草を植えたり木を植えたりしています。土佐山田町でも広く住民の声を聞いた川づくりがされています。

奈路川に多自然工法を取り入れたらどうでしょう。川に魚がいなくなったり、子供たちが川へ入れなくなった今、生物の住みやすい川づくりの学習会も必要だと思います。河川行政に自然環境の配慮を提案します。

山間部の休耕田

水田の荒廃、山間部の休耕田が多くなりました。そのまま放置しておくと思えなくなるし、守っていきたいが、今は人手不足、自分の田畑や山で精一杯の状態です。土地があれば作物づくりをしたいという人たちもいることから、土地情報とか土地利用の広報を行って、農業者でない人に使ってもらってはどうかと思います。花でも野菜でもいいと思います。組織の取組みを提案します。

公共施設の美化

久枝の浜の「空き缶の山」の新聞記事を読んで、市民として恥ずかしい思いをしました。子供たちを連れて遊びに行くのには、海や飛行機が見えよい場所です。花火のくずがあったり、空き缶がいっぱいではがっかりして帰ってしまいます。高速道路の出口からふれあい広場へいくまでの間に広場があるが、そこがいつもごみでいっぱいです。空の玄関、陸の玄関の南国市。市のごみ収集と同時に地域の人々にも協力を呼びかけていったらどうかと思います。公共施設の設置場所の美化を地域ぐるみですることを提案します。

その他に「公共の宿泊できる健康センターの建設」「市役所の受付の設置」「二〇〇二年団体に備えてグラウンドの建設」など提案がありました。

まぢづくりふ

市民と行政が共に自分たちのまちを考えていこうと、年4回、市長と行っています。第1回と第2回に



第2回
平成5年12月18日
テーマ
「女性の目で見えた南国市展望」

観光ハウス団地

南国市は空港と高速道路をかかえていたが、通過地点となっていました。県内外から来られる人たちのニーズに答えられるような施設づくりをしたらと思います。空港周辺一体に夢かもしれないが、巨大ハウス団地を提案します。これからの農業は企業化した大きな希望の持てる農業こそ重要視されるし、若者自身が主体になる農業にならなければならないと思います。南国市を訪れる人たちに新鮮で無農薬の野菜、果物をお土産に持って帰ってもらえるのもよいと思います。若い農業従事者が増える施策を望みます。

文化施設Ⅰ

文化の面から見た「まちづくり」として、第一に文化ホールの建設を望みます。今、私はこれも劇場にかかわり、子どもたちに生の舞台を見せたいということ、劇団を招いてお芝居とか音楽、人形劇などをやっています。施設が充分でなく、質の高い一流の芸術家や音楽家になかなか来てもらえません。照明とか音楽効果とかいろんな面でホールがないとできませんと言われます。未来を担っていく子どもたちに優れた文化に触れる機会を与えてあげたいものです。質の高い触れあいでできる施設が欲しいと思います。まちづくりは人づくりだと思っています。

文化施設Ⅱ

小さな町まで美術館があります。そこまでいかなくても、展覧会場が必要です。今、カルチャー時代。高齢者が趣味の絵画、書道、俳句などいろいろな教室で動んでいます。その人たちの生きがい作品を展示する場所がありません。南国市は健康文化都市としてスタート、心の健康、豊かさを求めている人たちに、コンサートや演奏会もできる施設があってもよいと思います。立ち遅れている文化施設に、文化ホールの誘致も含めて力を入れていただきたいです。

フライト農業

園芸のフライト輸送はまだ全体の二割程度です。今、フライトは数品に限られており、南国はオオバが主となっているが、他にフライトとして良いものがないかと考えています。農業従事者の高齢化していく中で労働力の省力化、少ない面積で高収入を得ていくためには、営農指導の施策を望みます。

その他に、「市役所への軌道横断」「教育施設」「自然を生かした公園」などの提案がありました。

市長の呟

南国市の将来をつくる地方拠点都市の二つの地区「まほろばの里アルカディア整備事業」と「サ・ごめんパワーアップシティ事業」で、どのように地域を活用すれば、南国市が自立できるか、地域の魅力を再確認し、新しい魅力の掘り起こしをすすめています。トークされた貴重な提案については、市政に反映していきたいと思っています。